

## 無駄な比較や、 利害の追求を越え… 安穩な我が心

先月2日夜から、3日にかけて、ミャンマー中・南部を直撃した大型サイクロン「ナル吉斯」は、自然災害の恐ろしさをあらためて、私達に見せつけていきました。

5月16日付け毎日新聞朝刊に「4万3千3百18人に達したと報じた。行方不明者は2万7千8百38人。軍事政権発表で初めて死者数が四万に達し、不明者との合計でも七万人を越えた。国連は死者・行方不明者合わせて最大10万人と推計している」と掲載されていた。

被害の大きかった地区では、建物の90～95%は崩壊し、5千平方キロの土地が水没しているとテレビで報道していた。この様な被害に対応するために、国連では協議会が開かれて、『緊急人道支援要員（被災者援助人員ともいうべき先鋭部隊）』の導入が検討されたが、これに対しミャンマー政府が出した応えは、『アメリカ救援チームの入国を拒否』と

いう信じられない呼応だったのです。目の前には、家族も家も財産も土地も、何もかも全て失い、嘆き悲しみ、拳げの果てに食べ物への援助が何も無く、飢えに苦しむ人々、怪我をして手当を受けることの出来ない人々…数え切れない人々が、命の危機にさらされているにもかかわらず、国の出した答えは「アメリカ諸国からの援助を拒否する」という信じられないものだったのです。ミャンマー側からすると、欧米諸国（アメリカ）は『敵対国』という認識が強いからで、無条件の援助スタツフ受け入れを警戒しているという事なのです。

天災と言えば、四川省で5月12日午後2時半（日本時間同午後3時半）にM8を越える地震が発生しました。被災状況は、日本全土の4分の1以上という信じられないほどの大範囲にわたり、類を見ないほどの大惨事となりました。

12日の地震発生以来、15日午後12時の限界（デッドライン）」とされる72時間が経過して、ようやく各国からの援助隊が入国するという有り様でした。理由は色々あるにせよ、これらの問題は、国同士の利害関係や、

お互いのパワーバランスも大切なのは分かります。ミャンマー政府にしても、中国政府にしても、いま一番力を入れなければいけない事は、言うまでもなく、目の前にいる『国民の人命救助』でありましょう。

私は『毒箭（どくせん）』という、お釈迦様の譬え話を思い出しました。

【何処からとも知らず、一筋の毒箭（毒矢）が飛んできた。そしてその毒箭が我が身に突き刺さったとき間髪をいれず、箭（矢）を抜き捨て、毒の始末、そして傷の手当てを急がなければ一命が危ないのは百も承知です。

しかし、この毒箭を抜き捨てようともせず、傷の手当てをすることもなく、なんと毒箭が刺さったまま、その場で考え込んでしまいました。

「はてこの箭は誰が射たのか？ またはこの毒の種類は何だろう？」等と、その原因をあれこれ、考えて…考えて…考えているうちに、終いには、自分の命を失ってしまった」という本末転倒した、愚かな者のお話です。

例えば、目の前の川に、自分の愛する我が子が溺れていたとしましょう。そんな光景を目の当たりにしたならば、何とか助け出そうと、すぐさま海に飛

び込むなり、何らかの行動に移すはずです。間違っても「我が子はどうして溺れてしまったのだろう？」なんて、考え込む事はないでしょう。実際、考えたところで何もなりませんし、愚の骨頂と言わざるを得ません。

世の中に、平和な世界を実現させるためには、各国同士の利害が絡んだお付き合いが無くならない限り、不可能でしょう。

国を良くするためには、国民1人1人が善くあらねばなりません。私達も知らず知らずのうちに、本末転倒した行動をとることがあります。そうならない為に、いつも客観視できる第3の眼を養っていく必要があります。

この眼を養う為には、何事も偏らないことです。偏ると、一方はよく見えても、もう一方は盲目になってしまつものです。平等で利害を気にする事が無くなれば、それが宇宙のリズムと波長を合わせていることになりまふ。この波長が合つてくると、無駄な比較をしなくなるものです。無駄な比較が無くなれば、苦しみや和らいできます。素直にあるがまま

を受け入れていく。自然の流れに沿って、自分の心を泳がせていく。そうすると、穏やかで、安らいだ気持ちになり、物事を極めて正しく判断することが出来るようになるものです。

どうか皆さん、余計な比較や、欲にまみれた利害の追求を速やかに止め、自然に生かされている、自分自身の命に感謝していきましょ。

そうすれば、本当に大切な物が見えてくるはず。本当にやらなければいけない事に気付くはず。どうか、心素直に今ある自分を見つめ直してみてください。

合掌

副住職谷川寛敬

